

JAQG 協賛メンバー訪問 ―株式会社アストロスケール様―

1. はじめに

航空宇宙品質センター(JAQG)は 2001 年の創設から 25 周年を迎えます。この記念企画の一環として、協賛メンバー様への訪問を開始しました。

JAQG では年に一度、活動報告会を行い、多くのメンバーの方にご参加いただいておりますが、各協賛メンバーの方の声を十分に拾い上げられていないのではないか、という問題意識がありました。本企画は、9100 規格の動向などについて率直な意見交換を行い、協賛メンバーの方の現場の声を拾い上げるとともに、IAQG や JAQG に対して親近感を持っていただくことを目的としており、話しやすい雰囲気となることを心掛けました。

2026 年 8 月 6 日、この企画の第 6 弾として、株式会社アストロスケール様（東京都墨田区錦糸 4-17-1）への訪問を実施いたしました。

2. 株式会社アストロスケール様のご紹介

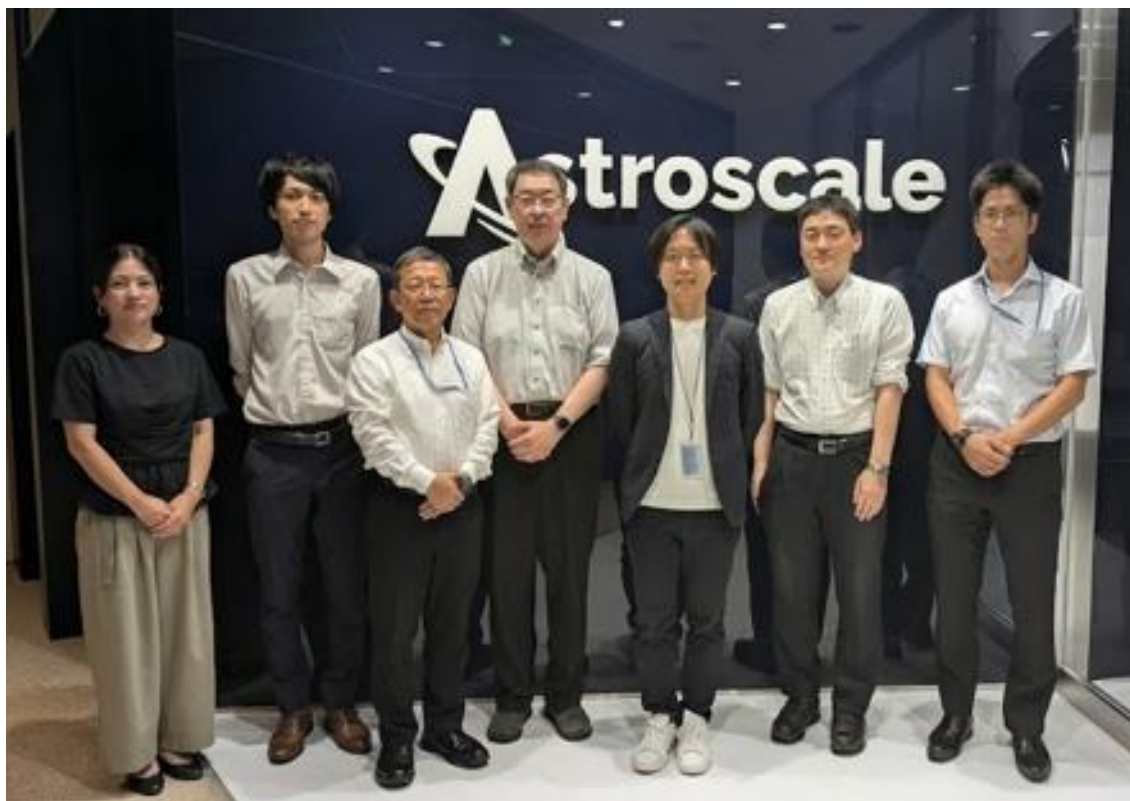
従来、人工衛星は自動車などと異なり、打ち上げた後の整備という分野が存在しませんでした。アストロスケール様は、この分野(オービットサービス)に対応する会社であり、持続可能な宇宙開発を目指しています。スペースデブリはここ数年で飛躍的に増加しており、対応へのニーズが高まっているとのことです。訪問した工場は 250 名程度が在籍し、うちエンジニアが 7 割を占め、Quality Assurance Group チームは 10 名程度とのことでした。

意見交換の後で衛星組立職場の見学もさせて頂き、大変有意義でした。

当日は品質保証グループの津島様（オンライン）、加賀屋様にご対応頂きました。

3. JAQG 説明

当日のアジェンダに沿って概要をご紹介します。



左から瀬尾氏、栗屋氏（NEC）、武内氏（三菱電機）、城福（SJAC）、加賀屋氏（アストロスケール）、櫻庭氏（IHI）、蟹江氏（三菱電機）

3.1 JAQG/IAQG 紹介（説明者：SJAC 城福）

JAQG 事務局より IAQG や JAQG の活動について紹介しました。IAQG の各メンバーは自社の業務を持ちながらボランティアで活動していること、9100 シリーズ規格の開発には JAQG メンバーも主体的に参加していること、要望や疑問があれば JAQG にお問い合わせいただきたいことをお伝えしました。

3.2 規格の最新動向（説明者：IHI 櫻庭氏 / 三菱電機 武内氏）

3.2.1 9100 規格について

9100 規格については、前半を株式会社 IHI の櫻庭様にご説明されました。2026 年 2 月の JAQG 活動報告会で用いた資料をベースとしたご説明でした。

アストロスケール様では、当初 9100 による QMS 構築及び認証取得に至った理由としては、宇

宙スタートアップ企業として、より QCD バランスを考慮した市場競争力を取り入れる必要があったこと、ならびに世界の宇宙機関や企業との共通言語としてのグローバル標準である 9100 規格に適合した QMS 体制構築が、JAXA 殿や防衛省殿を始めとする顧客への製品及びサービス提供に係る顧客満足の獲得に不可欠であったこと等が挙げられました。

ただ、ゼロからの認証取得であったため、社内 QMS 体制づくり、ルール規定の整備、従業員のマインド意識づけ等、色々大変だったとのことでした。

IAQG が推進している AIMM (Aerospace Industry Maturity Model) の紹介をしたところ、このツールは認証のリハーサル的な用途としても活用できそうだと感じられたようでした。

3.2.2 9150 規格について

9150 規格については、三菱電機株式会社の武内様にご説明されました。この規格は特に中小企業向けの規格として IAQG が開発中のもので、具体的な内容についてはまだ明確でないため、概要のご紹介にとどまりましたが、New Space の分野では、認証取得を一律の必須条件とした場合、サプライヤ選定の幅が狭くなる可能性もあり、この点で 9150 規格が比較的導入しやすい仕組みとなれば期待できる、との意見がありました。

少量多品種かつ高品質という製品特性上、少量多品種かつ高い品質要求が求められる製品特性から、要求に対応可能なサプライヤの確保そのものが課題の一つとなっているとのことでした。

4. 意見交換

4.1 模倣品対策と品質保証について

模倣品への対応に苦勞しており、信頼できる調達先から購入することが重要であるとのことがありました。正部品の入手性やコスト面での制約がある中、信頼できるサプライチェーンを確保し、模倣品混入リスクを適切に管理することの重要性について意見交換が行われました。、模倣品に関する社内教育の重要性も指摘されました。

4.2 AI の活用について

AI を品質活動に活用する際には、出力結果の妥当性や、その判断根拠をどのように説明・記録するかが重要な論点となるとの意見がありました。、品質という観点から根拠を求められる場面での AI の利用は課題があるとの認識が示されました。また、9100 改正版で追加される予定の AI の管理

レベル設定について、具体的に何をどのレベルまで管理すれば要求事項を満たすことになるのか詳細を知りたいとの議論もありました。

4.3 APQP/PPAP の開発プロセスに関する手法

自動車業界ベースの開発プロセス手法の利用に関する注記情報には興味がある旨、意見があった。また、モデルベース開発設計や開発早期からのシミュレーション検証を重視した活動等は、既に取り組んでおり、更に他業種で培われた有効な開発プロセスであれば、積極的に活用することを検討したい旨、意見があった。

4.4 その他

当日は JAQG 参加者との意見交換の中で、会社規模に依らず共通する悩みを抱えていることが分かり、双方にとって有意義でした。一方で、アストロスケール様では OASIS Insight や AIMM について、今後さらに活用できる余地があることも分かり、JAQG からの情報提供や活用事例の共有が有効ではないかとの意見交換が行われました。活動報告会などの場を利用して、啓蒙活動が必要と感じられました。

5. 株式会社アストロスケール様からの声

この度は貴重な機会をいただき、ありがとうございました。JAQG/IAQG の最新動向について直接お話を伺うとともに、当社が JIS Q 9100 を運用する中で感じている課題について率直に意見交換でき、大変有意義な機会となりました。特に、新興宇宙企業におけるサプライチェーン管理や AI 活用など、今後重要性が高まるテーマについて意見交換できたことを大変ありがたく感じています。今後も JAQG の皆様と継続的に情報交換をさせていただきながら、当社の QMS 改善につなげていきたいと思いをします。

6. 最後に

お忙しい中お時間を割いていただいた株式会社アストロスケール様の皆様には、改めて感謝申し上げます。

顔を合わせて話ができたことで、JAQG への親近感を持っていただき、要望等を伝えやすい環境づくりができたのであれば幸いです。持続可能な宇宙開発という新しい分野における現場の課題に

触れられたことは、訪問メンバーにとっても大変貴重な機会となりました。

以上